

# 東松山市の 古墳時代を紐解く散歩道

都幾川・市ノ川流域の古墳・遺跡



【リーダー】北村 清【サブ】瀬下みどり・谷川良久・栢 太津義  
【メンバー】布施元三・浅川静雄・矢島富江・山本峯子・古谷信一  
・橋本亮平（杵内写真）



東松山市埋蔵文化財センター

第13期 歴史・郷土学部 課題研究C班

## 1. はじめに

私たち歴史・郷土学部で課題研究C班10名は、東松山市の「古墳・遺跡」について学習する中で、これらを観光資源として価値を高められると考えました。

学習の成果が市の観光事業の一助になればとの思いも込めて以下報告させていただきます。

## 2. 活動記録表

3月11日(水)	教室	現状分析＝共通認識統一(確認)
3月18日(水)	教室	13・14期生対象のアンケート企画
3月25日(水)	外出	東松山市埋蔵文化財センター施設見学、市職員の佐藤氏に説明・案内を受ける。(2F倉庫含) 野本將軍塚古墳・おくま山古墳の現地調査
4月8日(水)	教室	3/25のレビューを行い、理解度の確認
4月22日(水)	外出	東松山市役所観光課訪問(Q&A)
4月22～23日	講堂	13・14期生アンケート配布・回収
5月20日(水)	教室	アンケートの集計分析をする。
5月27日(水)	外出	2班に分かれ、市内古墳の現地調査を実施する。(北部エリア・南部エリア)
6月10日(水)	教室	5/27のレビューを行い、各自レポート作成・内容を確認する。
6月17日(水)	外出	全員で行田市さきたま古墳群・博物館の現地調査(ボランティアガイドの説明)
7月8日(水)	講堂	PM1:30～3:30 特別講義「東松山市の古墳時代遺跡と課題」を受ける。(Q&A方式)坂本和俊先生(大東文化大学講師)
7月15日(水)	教室	資料の整理・検討(集約・削除・訂正)
7月22日(水)	教室	資料の整理・検討(集約・削除・訂正)
8月5日(水)	教室	資料の整理・検討(集約・削除・訂正)
9月2日(水)	講堂	レポート作成、内容確認
10月21日(水)	講堂	レポート作成、内容確認
11月4日(水)	外出	散歩道マップ推奨コース全員で散策する。
11月25日(水)	大学	本資料を事務局に提出し、発表資料作成開始

### 3. テーマ選定理由

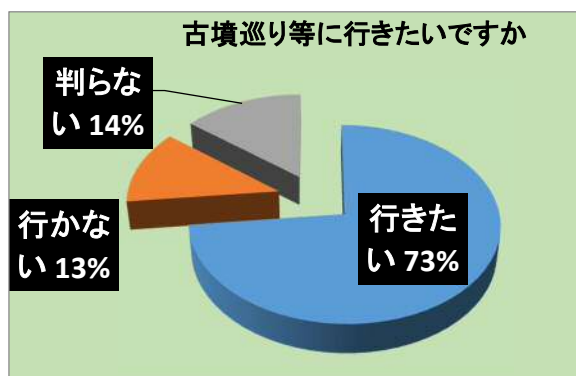
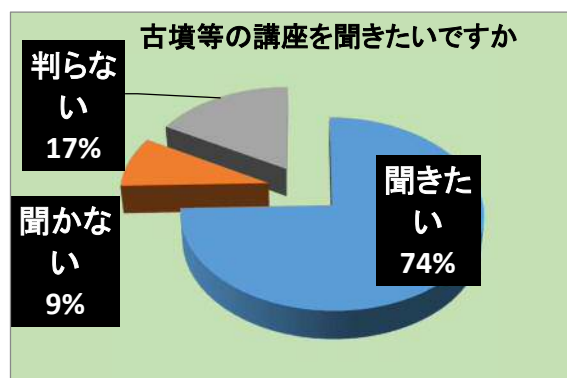
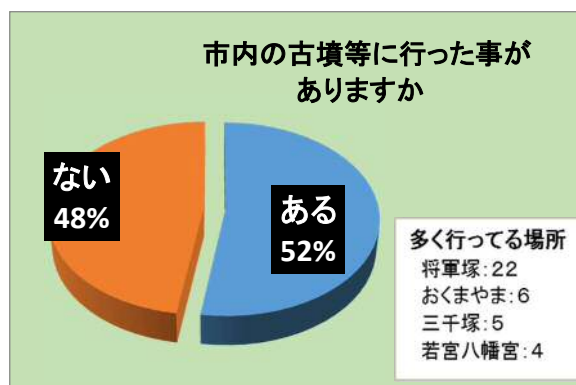
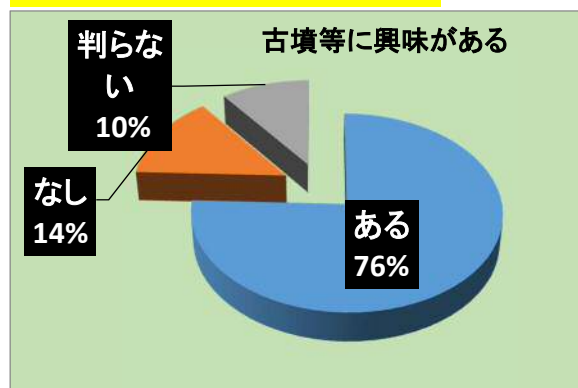
大学での受講と「埋蔵文化財センター」の視察見学、そして古墳・遺跡の現地調査を実施する中で、東松山市の古墳時代3～7世紀はどのような時代だったのかに、想像を巡らしました。「平成26年に新たに3件（三角縁神兽鏡・捩文鏡・短甲）の文化財が東松山市の指定になり、市内の国・県・市指定の文化財総数は131件になった」との記事が市広報誌に掲載されました。この比企地区特に市内に古代歴史の「古墳と遺跡」が多くあります。そして千数百年の時を超えた現在にどのように「価値」を生かしていけるかが重要だと思いました。

### 4. 研究の目的

#### ● 古墳時代を理解する。

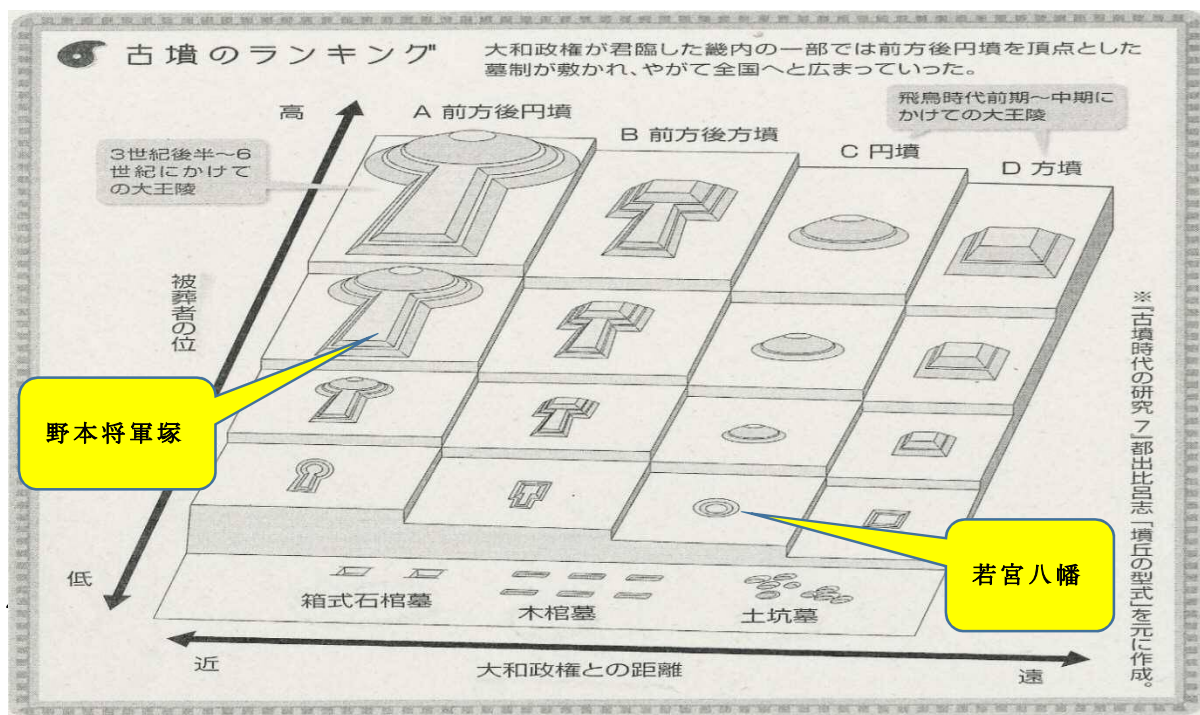
東松山市の古墳時代を研究し、その価値を広く市民の皆様へPRしたい。市内の古墳と遺跡を誰でもが学べ、良く理解でき現地訪問ができるガイドブックとマップを提供できれば喜ばれるのではと考えました。チームのこのような基本的考え方を検証するべく、きらめき市民大学13期生・14期生にアンケートを実施し、164名から回答を得ました。アンケートの結果、古墳に対する興味が多くある現状を理解し、古墳・遺跡などの文化財の保存と活用の仕組みを整理・提言することで市の観光事業にも寄与できると考えました。（アンケートの結果は以下の通りです）

アンケート総数：164名



## ● 古墳の理解のために（以下は参考文献より）

古墳には形状の違い・大小の違いが存在するが、その形から大きく「前方後円墳」「前方後方墳」「円墳」「方墳」の四つに分けられている。古墳時代当時は、ヤマト政権が支配する地域において、これらの古墳で構成される墓制（埋葬の風俗・風習）が敷かれていた。この墓制の中で、最も高いランクに位置づけられていたのが「前方後円墳」である。前方後円墳は、3世紀中頃に築造された形で、大王やその一族、ヤマト政権と密接な関係を持つ地方の有力首長が埋葬されたと考えられている。「前方後方墳」は、3～4世紀に盛行した形で、ルーツは東海地方西部に求められる。5世紀になるとおおむね姿を消し、代わりに「帆立貝型古墳」が築造されるようになる。「円墳」と「方墳」は「前方後円墳」の下位に位置する古墳。小型の物は首長に直属する人の墓と見られており、群集墳に多く見られる。



### \* 都出比呂志著書「古墳時代の研究・墳丘の型式」

東松山市内にも原型に近い、県内第二の大きさである前方後円墳「野本將軍塚古墳」をはじめ帆立貝型古墳「おくま山古墳」や円墳等が多く存在する群集墳がある。これらの古墳の価値を探るべく私達のメンバーで、古墳・遺跡・指定文化財の基本内容を「東松山市埋蔵文化財センター」を訪問し、市職員の方に説明をお願いした。そして全員共通認識の下、次のエリアを視察研究目的で行動する。

## 5. 古墳調査の実施

### ● 調査場所（下図の4エリアをターゲット）



埋蔵文化財センター資料引用

「北部比企丘陵の古墳」———大岡エリア

- ・雷電山古墳（川越カントリークラブ隣接）
- ・比丘尼山横穴群

「南部比企丘陵の古墳」———高坂丘陵エリア

- ・桜山古墳群（桜山窯跡群） はにわの丘公園

「都幾川流域の古墳」

- ・野本将軍塚古墳 ———野本エリア
- ・若宮八幡古墳 ———唐子エリア
- ・諏訪山古墳「浅間神社古墳」——高坂エリア
- ・高坂8号古墳・高坂神社境内（9号古墳）——高坂エリア
- ・毛塚1号古墳（古墳公園）———高坂エリア
- ・反町遺跡（ピオニウオーク東入口内展示）——高坂エリア

「市野川流域の古墳」

- ・おくま山古墳（古凍・柏崎古墳）——野本エリア407号線沿い
- ・岩鼻古墳群・岩鼻遺跡———松山エリア407号線沿い

このエリアを私達メンバー10名が2班に分かれて調査研究を開始した。その後レビューを各自レポート作成し全員で議論を交わした。以上、これら古墳・遺跡の説明は後述資料となります。

●古墳時代の時期区分と東松山市の古墳

日本考古学の時代・時期区分としては次のような古代歴史をたどることになります。東松山市の古墳の区分を記述する。

時代区分	時期区分	主な特徴と遺跡	東松山市の古墳区分
弥生時代	後期 1～2世紀	鉄器の普及	岩鼻遺跡・吉ヶ谷遺跡
古墳時代	早期 3世紀	邪馬台国の建国と前方後円墳の誕生	五領遺跡・諏訪山古墳
	前期 4世紀	前期古墳と大和王権の発達	諏訪山29号古墳 雷電山古墳（三千塚古墳群） 五領遺跡の布留式土器
	中期 5世紀	中期古墳と倭の五王と巨大古墳	野本将軍塚古墳 反町遺跡
	後期 6世紀	後期古墳と新王権の誕生	桜山窯跡 おくま山古墳（帆立貝型古墳） 若宮八幡古墳（円墳横穴石室）
	終末期 7世紀	前方後円墳の終焉と国家形成	古墳横穴群・窯跡群

## ● 東松山市の古墳を紹介します

### 雷電山古墳（北部比企丘陵の古墳）

◆所在地：東松山市大谷

川越カントリークラブの案内看板を入れて行く事、約1km山林に沿って行くと雷電山古墳の小さな立札が見え、この細い道を入れて行くと大雷神社境内になっていて、階段を登ると神社の社殿でここが雷電山古墳の頂上でもある。（丘陵、山林）



東松山市・熊谷県道の大岡活動センターの先に入口の看板あり

◆三千塚古墳群の中心となる帆立貝型古墳は小高い山の頂上（標高90m）にあるため素晴らしく眺めが良い。三千塚古墳の周辺は以前300程の古墳が密集していた。その面影も今はない、古墳群から直刀・刀子・勾玉・管玉等の古墳時代後期の遺物が出土している。底部穿孔（せんこう）の壺形土器が発見保管されている。総体に古式古墳の様相が見られる。



三千塚碑の裏側の左方向を望む



三千塚碑



三千塚碑の裏側の右方向を望む

◆全長：76m、後円部の高さ：7mの規模の帆立貝型の前方後円墳で、県の史跡、市史跡に指定されている。墳丘の規模は三段構築されていて、葺石（ふきいし）が墳丘に施されていた。埋蔵施設は推定竪穴式石室となっていた。この古墳の築造は5世紀前半～中期です。出土された円筒埴輪は県内最古とされている。（東松山市指定考古資料）埴輪は、独自に作られたようだ。大雷神社が建立されており、この神社の拝殿を増築する工事の際、墳頂部に方形に廻る埴輪列のある事が確かめられている。



縄文土器の様な模様がない。東松山市の他の土地から出た土器には板目状の線がある。

この辺りは東松山台地で生活には最適地だったのだろう。  
 雷電山古墳の100m程先には祭礼相撲場跡がひっそりとある。武蔵国風土記に古代より当地は山間の地にして水利の便・排水の便は常に悪く五穀実らずと碑に書かれている。  
 大神を祭って干ばつの時村民をあげて降雨の祈願をしていた。神社の嶺を平坦にして大神を鎮座してまつる。



比企丘陵の東北部、頂上に大雷神社が鎮座する雷電山古墳が築造されている。この雷電山から放射状に張り出し、谷によって画された細長な山稜尾根に9支郡に分かれ、前方後円墳3基をはじめ約250基の後期古墳が分布している。この丘陵はゴルフ場の造成により大きく地形が変わり、多くの古墳が煙滅している。

(古墳伝説) 天正18年5月、豊臣の軍勢として、松山城攻めのとき前寄手の総大将・前田利家が陣営を張った場所としても有名である。

### 比丘尼山横穴墓群 (北部比企丘陵の古墳)

- ・ 所在地：東松山市大谷
- ・ アクセス：東松山駅から市内循環バス（ぼたん園巡り）に乗車して大岡市民活動センターバス停下車（約20分）・徒歩15分（1.5km）
- ・ 形状：横穴墓
- ・ 築造年代：古墳時代後期（7世紀後半）
- ・ 出土品：遺物は無し
- ・ 史跡：市指定史跡（昭和32年） 県選定重要遺跡（昭和44年）



横穴墓



案内板



東松山市内にある古墳時代の横穴墓群の遺跡である。40～50基余りの横穴墓が分布し、うち3基が開口しているようだ。古墳は土を盛った小山の中に1つだけ玄室が存在する構造だが、横穴墓群は集合墳墓である。6世紀後半から7世紀前半に、小さな古墳が爆発的に築造され、その数は古墳総数の大半を占めている。小規模古墳の特徴は、一定の墓域の中に多数の古墳が築造されることである。直径10～20m程度の横穴式の円墳が主流である。そうした古墳が山麓や山間の谷間、台地上の平野にずらりと並んでいる群墳で、被葬者は地域の首長支配下の下位の人々である。

7世紀代に比企地方（東松山市・吉見町・滑川町・嵐山町等）に形成された古墳群は、（前方後円墳が築造されなくなり横穴式石室が構築された）横穴墓が主流となっている。

#### <トピックス>

- ・比丘尼山の南斜面に数基が開口、周辺には多数の横穴が埋没していると見られる。「比丘尼山」の名は、源頼朝の乳母である比企禅尼が草庵を営んだと言われる地から付いている。

### 桜山古墳群 1－13号墳（南部比企丘陵の古墳）

古墳群の築造年代は、幾つか異なった系統の横穴式石室の円墳群が構築されており、副葬品の出土も極めて少なく、年代の決め手としては不十分である。周溝などから出土している須恵器から年代を考えると展開された時期は古墳時代後期と考えられる。出土品（直刀・耳環・須恵器・土師器等）が県立嵐山史跡の博物館に保存されている。現在この丘陵一帯は区画整理事業で高坂ニュータウンとして数多くの住宅が立ち並ぶ景観になっており、造成のために発見された古墳群は消滅し古墳の原形を見ることは出来ない。

### 桜山窯跡群（昭和62年4月1日に東松山市指定遺跡となる）

武蔵国には、南から「南多摩窯跡群」東京都八王子市・「東金子窯跡群」埼玉県入間郡・「南比企窯跡群」埼玉県比企郡・「末野窯跡群」埼玉県大里郡の四大窯跡群があり、この内3つが北武蔵・埼玉県にある。特に比企地方の窯跡群は、古墳時代から渡来人・渡来文化が持ち込んだ「窯業技術」が発展し、埴輪須恵器を生産した初期窯跡が存在しており、貴重な遺跡が残されている。



比企地域には古墳時代（600年前後）6世紀後半から7世紀にかけて桜山（東松山市）五厘沼（滑川町）和名（吉見町）の埴輪・須恵器の生産が始まっていた。昭和55年の発掘調査によって「桜山窯跡群」では、須恵器と呼ばれる青灰色の高温度（約1200度）で焼かれた固い焼き物及び古墳に並べて祭るために使用された人物埴輪・馬形埴輪・円筒埴輪などを製作した遺跡が判明した。古墳時代後期に造られた須恵器窯跡2基・埴輪窯跡17基・住居跡3軒が発見され話題になった。県内では最古に属するもので古代の窯業生産と流通過程を知るうえで貴重な遺跡であり、遺跡公園「はにわの丘」として整備・保存されている。



埼玉県埋蔵文化財事業団蔵

埼玉県三つの窯跡群「埼玉県史図解引用」

古代8世紀（奈良時代）になると南比企丘陵～鳩山町を中心に、嵐山町、玉川村の一部に多くの須恵器窯が造られて、須恵器と瓦の生産がさかんであった。桜山窯跡群の周辺は、季節ごとの景観がよく、松風公園・千年谷公園とよく整備区画されており、4月は桜・5月はつつじと見どころ満載なエリアである。

## 「交通アクセス」

東武東上線高坂駅西口から、バスにて「桜山小学校バス停」で下車すると、徒歩3分で桜山窯跡群「はにわの丘公園」に到着する。

\*桜山台経由東京電気大学本館前行き、または高坂ニュータウン循環のバスに乗車する。

## 野本将軍塚古墳（都幾川流域の古墳）

所在地：東松山市下野本

都幾川が形成した広い沖積地に張り出す松山台地先端部に直面して築造された墳長115m、後円部高さ13m、前方部高さ8mの前方後円墳で、野本第1号古墳と番号されている。埼玉県第二の規模を誇る古墳として存在感がある。築造年代は、古墳時代5世紀後半から6世紀初頭と考えられている。**昭和35年3月に東松山市指定史跡に指定となる。**この古墳は丘陵の裾に南北を主軸として、前方部を正南に向けている。前方部頂上には「忠魂碑」があり、陸軍大将 金谷範三書とある。この前方部は後円部に比べると土が削り取られて低くなっている。これは現在隣接する「野本市民活動センター」が存在するが、以前は「野本小学校」があり、その野本小学校を築造するときに古墳前方部の土を使用したとの事である。後円部には鎮守府将軍だった藤原利仁を祀る利仁神社があったから「将軍塚古墳」といわれるようになった。この古墳は昭和53年に墳頂部のボーリング調査が行われ、墳頂下約1.2mに埋葬施設の存在が確認されているが、その後の発掘調査は現在まで行われていない。



後円部墳頂の階段(利仁神社)



案内板

古墳伝説（民話）として歴史的人物である征夷大將軍坂上田村麻呂がこの地に来た時に、重い「はしか」にかかり高熱を下げるために石枕を使った。それが効いたのか熱が下がり回復したという。回復を喜んだ坂上田村麻呂が使用した石枕を利仁神社に納めたそうである。それ以来この神社は「はしか」の神様として地域に知れ渡ったそうである。

この古墳は、正確な実測調査や発掘調査が行われれば、県内一とされているさきたま古墳群（行田市）の二子山古墳を凌ぐ可能性を秘めている。平成28年春ごろには早稲田大学考古学研究者による透視機器での調査が行われるかもしれないとの事である。すぐ近くの市埋蔵文化財センターを見学し、専門家の説明を受けることは有益だと思います。

## 若宮八幡古墳：下唐子3号墳（都幾川流域の古墳）

### ●古墳の概要

県指定史跡：昭和39年3月27日に指定される。

所在地：東松山市石橋字塚原2440-1

形状：円墳 規模：墳径34m・墳高4.5m

築造年代：古墳時代後期（6世紀末）

埋葬施設：横穴式石室 出土品：円筒埴輪片



昭和59年3月の東松山市教育委員会の古墳案内表示板には、墳丘直径30m・高さ4mとのことだったが、平成22年、23年に石室整備調査が行われ、現在の表示板には墳径34m・墳高4.5mと規模の変更が表示されている。

### ●保存の環境

古墳らしい古墳を体感できるのが若宮八幡古墳と思います。



★円墳の形状を良く留めており、築造当時の姿が推測できること。

★開口部が古墳の南側にあり、石室を見るための照明設備もあり、室内の様子が良く確認できる。

★昭和39年に史跡指定されて保護されてきているなどが理由です。

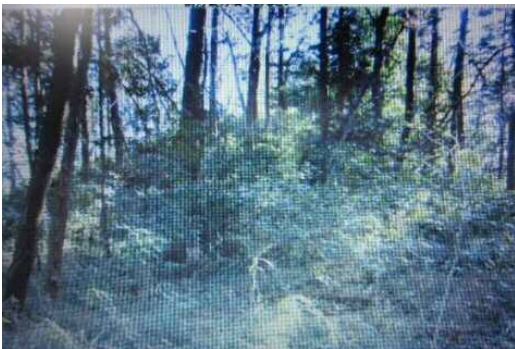
## ●古墳の過去・現在

★過去：6世紀後半の築造と推定されており、1400年以上の年月が経過しておりながら古墳の形状や石室が当時のまま残ったところに驚嘆させられました。

江戸時代の明和年間（1764～1771年）には横穴式石室が開口されたとのことです。築造から明和までの間に盗掘され、石棺・埋葬品が失われたと推測できます。今から100年前には人が住処として利用していたことが、打木村冶の小説「天の園」で知ることが出来ます。

★現在：平成22年、23年に石室も修理され、また案内板も新調され、一番良い状態で保護されている感があります。地元の人達が八幡神社を祀り、社殿もあり小説「天の園」の舞台である周辺の美しい自然と共存しており、市内の有力な観光・自然散策スポットになりえると思います。

## 諏訪山古墳群（都幾川流域の古墳）



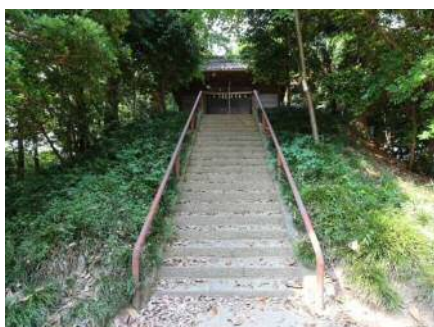
諏訪山古墳（墳丘部）



諏訪山29号古墳（墳丘部）

高坂台地の縁辺部に存在する諏訪山古墳群である。この古墳群は、古墳時代前期前半の諏訪山29号墳、前期後半の諏訪山古墳、中期後半の諏訪山33号墳、後期初頭の円墳・諏訪山4号、後期初頭以降に築造された円墳等からなる。諏訪山29号墳は墳長53mの前方後円墳で出土土器から、4世紀前半前後に築造されたと推定される。29号古墳の前方右前方に接し、高坂諏訪山古墳は墳長68mの前方後円墳で埴輪を持たない古墳で、29号古墳の後に築造されたと考えられる。この古墳は昭和32年11月に東松山市指定史跡にされている。又出土品である青銅製鈴付腕輪は昭和46年6月に東松山市指定考古資料に指定されている。

## 浅間神社古墳（浅間塚・西本宿地区）



後円部（墳頂に社殿）



社殿の横下から墳丘部分

西本宿地区にも多くの古墳が存在している、浅間塚「浅間神社古墳」と称され前方後円墳で須土器・金環・曲玉等が発見されている。富士山に見立てた墳丘の上に「木花咲耶姫命」（このはなさくやひめのみこと）を祀る浅間社殿が鎮座している。神話に「木の花が咲くように美しい女性」として登場すると「天孫瓊瓊杵尊」（ににぎのみこと）に見初められて妻となり、後の初代天皇である神武天皇に連なる神々の母となった神様です。この神様を主祭神として祀る富士浅間神社は子供を守護する神としての信仰を集めております。21段の階段途中で皇族の誕生を記念して、弓の材として用いたという「梓」が植樹されている。高坂地区区画整理事業に伴い、多くの古墳群の原型が消滅しつつも「浅間神社古墳」は古代の価値として一部分ではあるが保存・管理されていると言える。

（交通アクセス）

市内循環バス（唐子コース）「後本宿集会所前」バス停から、徒歩5分です。  
東上線「高坂駅」から徒歩15分です。

## 高坂8号古墳（都幾川流域右岸の古墳）

（古墳の概要）

平成23年8月に高坂地区区画整理事業に伴い、発掘調査が開始された。

所在地：東武東上線「高坂駅」から東へ600m、都幾川の沖積地を東に臨む高坂台地の縁に存在する。

形状：当初は円墳かと思われていたが、出土品から調査した結果、前方後円墳であると位置づけられた。

築造年代：古墳時代（4世紀後半）

規模：東西約23.7m・南北約20m

出土品：振文鏡（東松山市指定考古資料）・仿製鏡・ヤリガンナ、管玉、土師器



高坂 8 号と高坂神社境内

捩文鏡

出土した土師器

現在は区画整理事業で住宅が立ち並び、発掘調査跡は見る事ができないが隣接する高坂神社境内（9号古墳）と三角縁神獣鏡の発見場所は見る事が出来る。8号古墳と9号古墳は隣接しており「卑弥呼の鏡」発掘場である。

### 高坂神社境内（高坂 9 号古墳）で発見された「三角縁神獣鏡」

高坂 8 号古墳跡に隣接する都幾川流域の古墳。



8 号古墳に隣接する場所

高坂神社境内（9号古墳）

平成 2 3 年に高坂神社境内で発見された「三角縁神獣鏡」は埼玉県内で最初に発見された場所である。この鏡の伝来は古墳伝播の時期と経路が問題であるが、東山道・東海道の南北ルートの方の可能性があり、邪馬台国から直接配布されたか、群馬県の古墳で数面副葬の有力首長から間接的に受け取ったか、そのいずれかの判断は難しい。

東松山市は地形的には、丘陵・台地・沖積地と変化に富んでおり、遺跡が数多く残されているところである。この地は、都幾川流域右岸の古墳として、諏訪山 2 9 号古墳・諏訪山古墳群・高坂古墳群・毛塚古墳群と数が多いところである。



公園（毛塚 1 号古墳）

案内板（公園入口）

この鏡が発見されたのは古墳からの出土品ではなく、高坂8号古墳の発掘調査員によって隣接している高坂神社境内から見つかる。発掘調査で高坂8号古墳から出土した「捩文鏡」が出たことで調査員がこの鏡を発見することが出来たといっても過言ではないと思われる。三角縁神獸鏡は、ヤマト王権が配布したと考えられている鏡である。三角縁神獸鏡の発見は東松山市域の首長層とヤマト王権の結びつきを証明したといえる。



出土品(現物)  
(三角縁陳氏作四神二獸鏡)



復元品(レプリカ)

企画展示：市指定文化財「蘇った三角縁神獸鏡」平成26年度  
(東松山市埋蔵文化財センターにて)

「卑弥呼の鏡」とも言われる三角縁神獸鏡は古墳時代初めの250年～260年頃に鑄造されたものと判明した。陳氏が作ったものと刻まれ、四体の神像と二匹の獣像が描かれているために「三角縁陳氏作四神二獸鏡」と名付けられた。文様面が裏で、表が鏡としての役割を果たす。復元品によって1700年以上前の古代の人々がみた輝きを見ることができる。「マスコミ」にも取り上げられたこれら古代の貴重な観光資源を情報発信して、市内外・全国に「東松山＝古代歴史の里・古墳と遺跡」を市民とともに更なる観光地として拡げていくのが大切と思われる。

## 反町遺跡 (都幾川流域の古墳)

(概要)

所在地：東松山市高坂256番地・他

反町遺跡は高坂台地と都幾川に挟まれた低地に所在する。(現：ピオニウオーク敷地内・周辺)平成17年より、5回の発掘調査が行われ、弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺構・遺物が検出・出土されている。

古墳時代(約1700年前)に大規模な集落が作られ、その後古墳時代中・後期(約1500～1400年前)に墓域として利用され数多くの古墳が造られました。これまでに調査した古墳は26基で、前方後円墳を中心に大小さまざまな円墳が隙間なく発見されている。古墳跡からは人物埴輪や馬形埴



輪・円筒埴輪・銅鏡が出土している。調査区の北側からは、大溝跡があり、この溝跡からは住居に使われた柱や梁、板材などの建築部材も多く出土している。また当時の人が使っていた木製の臼や杵、田下駄などの農具も出土している。

(過去と現在)

現在は大規模ショッピングセンター「ピオニウォーク」をはじめ、大手ホームセンター・家電量販スーパー等が密集する大商業都市となっている。交通アクセスは、東武東上線「高坂駅」東口から、徒歩またはバスで行ける。

ピオニウォーク東入口には「反町遺跡の展示コーナー」があり、発掘調査時の写真と遺物が一部を見る事が出来る。川の流域で水が豊富で耕作に適し、多くの人々が生活していたと想定できる。



人物埴輪・馬形埴輪



住居跡遺跡

## 柏崎古墳群 (市野川流域の古墳)

松山台地が市野川と都幾川に挟まれて大きく東に突き出た舌状台地の北側、標高約26m。沖積地からの比高約5mに築造された古墳群である。確認されている古墳は、前方後円墳、おくま山古墳、前方後方墳柏崎天神山古墳、方墳の柏崎8号墳、そして15基以上の円墳である。この柏崎地内では、明治43年に小原地区から、開墾中に地下0.3mから、径6.1cmの珠文鏡一面(東京国立博物館収蔵)等が発見されている。



権現塚古墳(柏崎12号古墳)



珠文鏡(柏崎古墳群)

## おくま山古墳（柏崎1号古墳）

柏崎1号古墳と称号されている。「熊野山古墳」とも称され、古墳群のほぼ中央に位置する墳長62m、後円部径40m、高さ7m、前方部長さ20m、幅20m、高さ1.5mの帆立貝型前方後円墳で、馬蹄形の周溝がまわっている。埴輪等から築造は古墳時代6世紀前半と考えられる。

昭和46年6月に東松山市指定史跡に指定される。



おくま山古墳（登り口）



出土品（人物埴輪）埋蔵文化財センター

又、後円部には熊野神社が祀られており、この古墳の名称の由来となっている。地元の人いわく戦前まで周濠があり、そこで馬を洗っていたそうである。この一帯は大小の古墳が散在しており、古凍・柏崎古墳群と呼ばれているエリアである。できれば発掘調査をして被葬者の姿がわかれば古代の歴史が解明されるはずである。

古墳伝説（民話）としては、天正の松山合戦（豊臣秀吉勢の松山城攻め）の際に古凍付近は上杉景勝の陣地となり、標高が松山城と変わらないので、この古墳を物見台として活用したとの事である。

## 岩鼻古墳群：岩鼻遺跡（市野川流域の古墳）

### ●岩鼻5号墳

きらめき市民大学の北側の駐車場内に築山化されて残る約21mの円墳。国道407号バイパスから見える。公園地帯の周りの雰囲気ですっかり溶け込んでいる。言われなければ誰も古墳とは思わないだろう。

★土師器、埴輪、周堀確認



馬形埴輪・飾り馬(岩鼻5号墳出土、東松山市埋蔵文化財センター蔵)

### ●岩鼻6号墳

5号墳の50mほど北側に16mの円墳。やはり築山状で、周りは舗装されていない駐車場となっている。墳丘に石塔が載っている。

★土師器、周堀確認



### ●岩鼻13号墳(菅原神社古墳)

岩鼻運動公園の南、市の川にかかる天神橋のたもとにあり、国道407号からも見えている。16mの円墳だが、現状は杉木立の中に低い墳丘がやっとわかる程度。横穴式石室が確認されている。

菅原神社正面。台地端にあるので全体が古墳であるかのように見えるが、古墳は左手奥にある。天神さまは水の神でもあり、神の使いと言えは牛ということで、牛さんが狛犬代わりに鎮座している。

★鉄鍬、馬具、須恵器、横穴式石室



岩鼻古墳群は、岩鼻運動公園周辺に分布している。この地域は松山台地の北側で、市の川と滑川に挟まれた狭長な台地上にあたる。文献では24基の記載があるが宅地化などにより残るものは少ないようだ。古墳よりも弥生時代後期の岩鼻式土器を出土する岩鼻遺跡としてのほうが有名です。

(参考文献)

埼玉の古墳 比企・秩父 塩野博 著書 引用

聞き書き比企の古墳 県立玉川工業高等学校郷土研究部 著書 引用

市制60周年シンポジウムの「3～4世紀の東松山」 テキスト引用

東松山市 広報誌記事 引用

きらめき市民大学 特別講義 坂本和俊 大東文化大学講師

きらめき市民大学講義「邪馬台国の東松山」鈴木敏弘 大東文化大学講師

埼玉県埋蔵文化財調査事業団 反町遺跡 引用

東松山市 反町遺跡現地説明会資料・ピオニウオーク展示品 引用

WEB 「古代武蔵学事はじめ」引用

以上、私達は考古学の知識もなく素人ですが、多種にわたる参考文献および大学の講義・市職員・大学の先生方の指導・助言を仰ぎ、実践行動により何とか視察場所の報告を全員でまとめることが出来ました。

## 6. まとめ

私達はこの課題研究を通じて、東松山市の古墳時代を理解し、数ある貴重な資源(古墳、遺跡・文化財)は市の観光事業に寄与できると確信しました。更に事業を推進できるよう次の通り、提案させていただきます。

そして、私達も市民ボランティアの一員として参画できればと考えています。

### (1) 観光、教育用の情報を提供

- ①市に現存する貴重な資源(古墳、遺跡・文化財)と観光面で有益な情報を、市内外に紹介する仕組みを整理するとともに、市埋蔵文化財センター保有の資源をセンター内でビデオ/TVにより鑑賞でき、学習できる場を提供していく。
- ②市内葛袋に新設される化石体験館施設と市埋蔵文化財センターが運用面で連携した体制を提供していく。

### (2) 埋蔵文化財センター施設の拡充

- ①市民ボランティア組織を編成して、市の関係者と協力して展示室の企画運営を行なっていく。
- ②センターの展示室を、1階・2階に拡張し、2階に保管されている文化財は新たに倉庫を敷地内に増設して頂く。現在の休館日を一部変更し、春・夏・冬休みの土日・祭日に開館できる体制を構築していく。
- ③センターを含め他市のイベント、文化財保護・普及事業の動きを広報活動していく。

### (3) 簡易ガイドブックの整備

古墳、遺跡を案内し「散歩道」として観光できる簡易ガイドブックを整備していく。例として「古代歴史の散歩道」を紹介させていただきます。

